

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

県境を越えた地域医療連携について

研究分担者 柏木賢治 山梨大学・准教授

研究要旨

ICTを用いた広域の診療連携システムの推進を行った。本年度は診療連携システムを用い広域の医療者により診療の支援を推進すると同時に、患者に積極的なデータの開示を行うことによる診療効果の確認を行った。

A. 研究目的

情報通信技術（ICT）を活用して医療者、利用者、行政などが医療健康情報を共有化し住民の健康福祉の向上と維持を図ること。

B. 研究方法

すでに活用を開始した診療支援プログラムの実際の患者診療における有用性を緑内障患者に絞って前向きに検討した。

C. 研究結果

無作為に患者に診療データを提供する群と、診療時に医療者が対応するだけのコントロール群に分け、緑内障診療に重要な眼圧や治療薬の推移を前向きに検討した。その結果、データを提供された患者群においてはコントロール群に比べ、20%程度の有意な投薬数の抑制が認められた。また同一患者においてデータ提供により同様の治療内であっても、眼圧下降治療が改善することが確認された。

D. 考察

患者が自己データを閲覧することによって、自覚症状の少ない慢性疾患である緑内障の診療が

有意に改善した。投薬量において20%の減量、眼圧下降治療の改善といった効果が認められた。本研究は無作為前向き研究であり、結果の信頼性が高いと考えられる。今回対象とした緑内障は典型的慢性疾患であり、この結果は糖尿病や高血圧などの他の慢性疾患にも患者へのデータ提供が治療に有効である可能性を示唆していると考ええる。

E. 結論

ICTを用いた多職種のコラボに加え患者へのデータ提供はより効率的な医療に貢献する可能性がある。

G. 研究発表

1. 論文、書籍発表

Kashiwagi K(1), Tsukahara S.
Impact of patient access to Internet health records on glaucoma medication: randomized controlled trial.
J Med Internet Res. 2014 Jan 15;16(1):e15.

2. 学会発表

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし